

肉豚市場の動向

肉豚出回りの減少傾向は、しばらくつづきそうである。

肉豚価格（東京卸売）
の季節変動指数

注 2、1、昭和27～34年、連環指数法による。

| | |
|-----|-------|
| 1月 | 111.4 |
| 2 | 109.9 |
| 3 | 105.2 |
| 4 | 96.7 |
| 5 | 91.0 |
| 6 | 94.3 |
| 7 | 98.7 |
| 8 | 101.7 |
| 9 | 105.2 |
| 10 | 106.0 |
| 11 | 91.3 |
| 12 | 99.4 |
| 年平均 | 100.0 |

豚肉の価格は例年、1～3月は高く、4～6月は安く、8月から10月までふたたび高くなる、といった季節変動をくりかえしている。別表は27～34年々間価格変動を整理して、年平均価格を100とし、月々の価格の偏差をあらわ

した季節変動指数であるが、通例の市場条件であれば季節的な価格変動は、別表のような傾向をあらわす。したがって、1月もしくは2月の価格が変わると、この季節変動指数を利用してほぼ上期（4～9月）の価格予測ができるわけである。

ところが、35年の肉豚の価格変動は、市場がきわめて特殊な供給不足の状態にあるため、別表のような季節変動の型はいちじるしくずれるものとみこまれる。

すなわち、35年の豚肉の卸売価格（東京）をみると、3月末から4月上旬までは、320円（1kg当り）前後の高値で横ばいしてしたが、4月中旬から下旬にかけてふたたび値上がりし始め、4月22日には343円となり、この高値は5月上、中旬までつづいている。

一方、農村の肉豚価格は、未だ3月までの統計しかないが、1月の184円（生体1kg当り全国平均）から2月には187円に、3月は180円であった。

では、最近の東京市場における豚肉卸売価格の強調をどうみればよいだろうか。まず、東京市場における最近の入荷の動きをみると別表のように、1月の入荷は前年同月にくらべ44.5%、2月は同じく60.5%、3月は60.3%で、1～3月の入荷合計とし

ては前年同期の55%であった。このような東京市場における入荷の急減は、34年下期以降ひきつづいてる現象である。参考までに35年1～3月計の名古屋、大阪両市場の入荷をみると、名古屋は前年同月にくらべて96.4%、大阪市場では同じく99.3%で、この両市場に関する限り、入荷はそれほど減少していない。東京市場へのお荷の急減は、全般的に肉豚の出回りが少ないうえに地方の中、小都市における肉消費が一般的に増加傾向にあることや、地方の産地に加工筋が進出するにともなって地方屠殺が増加していること、そしてこれらにともなって、地方市場と東京市場との価格差が小さくなる傾向にある、といったことなどによるものと考えられる。つぎに、東京市場における主要生産県からの入荷をみると、35年1～3月計では、青森、岩手、茨城、

肉豚の市場入荷量

| | 東京市場 | | 名古屋市場 | | 大阪市場 | |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 実数 | 前年同月比% | 実数 | 前年同月比% | 実数 | 前年同月比% |
| 35年1月 | 19,596 | 44.5 | 3,070 | 100.8 | 6,281 | 96.2 |
| 2 | 24,830 | 60.5 | 3,395 | 105.9 | 6,623 | 105.1 |
| 3 | 27,447 | 60.3 | 3,831 | 86.4 | 7,001 | 96.6 |
| 1～3月計 | 71,873 | 55.0 | 10,296 | 96.4 | 19,905 | 94.4 |

資料：農林省畜産局調。

東京市場の主要県別入荷量

| | | 35年1～3月計 | 前年同月比% |
|---------------------------------------|---|----------|--------|
| 青森 岩手 茨城 千葉 新静 熊宮 鹿 | 森 | 4,472 | 63.2 |
| | 手 | 5,639 | 63.6 |
| | 城 | 12,787 | 60.6 |
| | 葉 | 3,297 | 62.0 |
| | 蕨 | 6,311 | 69.7 |
| | 岡 | 2,203 | 92.7 |
| | 本 | 3,368 | 47.6 |
| | 崎 | 4,367 | 47.3 |
| | 島 | 14,732 | 49.5 |

資料：東京屠場調べ

岡山畜産便り 1960.07

千葉からの入荷は何れも前年同期にくらべ60%台新
潟は約70%であるが、静岡県よりの入荷は、前年同
期を7%ほど下回っているにすぎない。一方、九州
からの入荷は熊本、宮崎、鹿児島など何れも50%以
下となっている。とくに、九州での地場消費はいち
じるしく増えているようである。

緊急輸入の豚肉及び豚脂肪は34年12月に約950
トン、35年3月に1,500トン輸入されたが、生豚は
ほとんど輸入できなかった。なお、今後も国内の需
要がひっ迫すれば、これを是正して、産地の仔豚価
格、消費地の豚肉価格の異常高騰を抑制するための
輸入も考慮されるが、輸入国の豚価も意外に高いの
で、国内の肉豚価格にあたる影響は、比較的少な
いものと考えられる。

では、最近の豚肉消費の動きはどうか。豚肉の家
庭消費をみると末端価格の高値のためにいぜん低調
のようであるが、加工用向けは、ひきつづいて活発
のようである。すなわち、35年に入ってから、ハ
ム類等ののびは小さいが、ソーセージ類はいぜん30
~40%近いのびをみせているようである。なお、参
考までに35年1~3月の肉牛の入荷をみると東京市
場では同じく3%減、大阪市場では、逆に22%増と
なっている。東京市場での肉牛の入荷減は、とくに
豚肉価格に影響することが大きいとみななければなら
ない。

以上のようにみると最近における豚肉価格の再度
の値上りは肉豚の出回りがことの外に少なくなっ
てきているうえに肉牛の出回りもまた少なく、しかも、
加工用肉の需要はいぜん順調にのびているといった
ような理由によるものと考えられる。

問題は、これから先の豚肉市場がどのような動き

食肉加工品生産量 (単位：トン)

| | ハム | | | ベー コン | ソー セージ | 合 計 | 対前 年比 % |
|-----|-------------|--------|--------|----------|-----------|--------|---------------|
| | ロース ボンレス | プレス | 計 | | | | |
| 昭28 | 1,478 | 8,868 | 10,346 | 660 | 4,005 | 15,011 | 118 |
| 29 | 1,649 | 13,014 | 14,663 | 805 | 5,649 | 21,117 | 148 |
| 30 | 2,188 | 16,795 | 18,795 | 1,044 | 7,237 | 27,076 | 128 |
| 31 | 3,177 | 20,037 | 23,214 | 1,414 | 10,132 | 34,760 | 128 |
| 32 | 3,701 | 23,605 | 27,316 | 1,624 | 12,390 | 41,320 | 119 |
| 33 | 4,652 | 27,027 | 31,679 | 2,036 | 18,850 | 52,565 | 127 |
| 34 | 4,949 | 28,728 | 33,677 | 2,043 | 26,627 | 62,247 | 118 |

資料：食肉加工組合調べ

をしめすかであるが、まず、農村における肉豚の飼
育頭数はどうであろうか。

最近の統計によれば、農家の飼育している肉豚の
頭数は、さきに公表した「農業観測」の当時の予想
よりさらに減少しているようである。

肉豚の飼育頭数の減少は東北地方の一部を除いて
は、全国的な傾向のようで、とくに若齢のもの頭
数が、前年にくらべて減少しているようである。す
なわち、34年11月、12月および35年1月頃に生ま
れた仔豚の頭数が少ない、さきの農業観測では、34
年の秋仔豚の生産は、絶対的に少ないとみたが、そ
の予想をさらに下回っている。このことは、34年度
上期の安値時において種、豚がいかにも多く、出荷し、
屠殺されたかをしめしている。また、価格が回復し、
高騰した34年度下期においても、一部ではかなりの
種豚が出荷し、屠殺されたとみられる。したがって、
このようにみると、9月頃までは、肉豚の供給不足
はつづきそうである。それ以後については、本年春
仔の生産のいかんにもよるわけである。春仔の生産
は、今のところ確かな資料はないが、余り多くはな
いではなかろうか。

**仔豚の農村価格
(中ヨークシャ、生後40~60日)**

| | 牝 | 牡 |
|--------|--------------------|--------------------|
| 34年 1月 | 2,747 ^円 | 2,682 ^円 |
| 2 | 2,747 | 2,669 |
| 3 | 2,727 | 2,654 |
| 4 | 2,631 | 2,576 |
| 5 | 2,517 | 2,444 |
| 6 | 2,477 | 2,416 |
| 7 | 2,675 | 2,550 |
| 8 | 2,983 | 3,055 |
| 9 | 3,174 | 3,101 |
| 10 | 3,406 | 3,331 |
| 11 | 3,871 | 3,850 |
| 12 | 3,806 | 3,724 |
| 35年 1 | 3,875 | 3,802 |
| 2 | 4,064 | 3,997 |
| 3 | 4,124 | 4,053 |

資料：農林省統計調査部，農村物
価賃金調査

岡山畜産便り 1960.07

ところで、最近の仔豚の価格をみると、仔豚の生産が少ないことと、成豚の高値に影響されて、仔豚の価格は毎月値上りをしめし、34年12月の農村価格は3,806円（中ヨークシャ、生後40～60日牝）35年1月3,875円、2月はついに4千円を突破し4,064円、3月は4,124円である。

今後もなお、高値がつづくと思われるが、6,000～7,000円にもなれば、これを飼育することには、採算上かなり問題があろう

（農林省統計調査部農業観測補完資料より）